

令和元年9月3日現在

機関番号：32510

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2018

課題番号：26870131

研究課題名（和文）移行経済期ベトナムにおける新規大卒労働市場と人的ネットワークの「正当化」機能

研究課題名（英文）Labor market of new university graduates and a justification function of network of personal connection in Vietnam during transitional economy era

研究代表者

伊藤 未帆 (ITO, Miho)

神田外語大学・外国語学部・講師

研究者番号：90466821

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、計画経済から市場主義経済への移行期にあるベトナム大卒者労働市場に焦点を当て、その中で行われている能力評価指標の多元化の実態を実証的に解き明かすことを試みたものである。ハノイ市内で就業する大卒労働者のキャリア形成についての定量的調査、および企業の人事担当者に対する聞き取り調査を実施し、現在のベトナム大卒者労働市場において、計画経済期の職業分配制度が依然として影響を及ぼし続けていること、その結果、学歴シグナルに対する補完的役割として、非学歴的なシグナルにも一定の正当化機能が与えられるようになってきていることを示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

移行経済期にある今日のベトナムでは、かつての計画経済期には想定されていなかった社会階層の分化が急速に表面化および深刻化しつつある。この中で、高度技能労働を担う大卒労働者は学歴エリート層として社会の上層にいとみなされてきたが、その内部の多様性は看過される傾向にあった。本研究の学術的意義は、第一にこの学歴エリート層内部の多様性に注目し、彼らのさまざまなキャリア形成のパターンを明らかにした点、第二に、こうした多様化の背景に、計画経済期に行われていた職業分配制度が一定の影響を与えていることを示唆した点である。

研究成果の概要（英文）：This study examined the diversification of indexes to evaluate university graduates as a labor force in the high skilled labor market in Vietnam during transitional economy era.

Based on the questionnaire survey on career building of people who graduated universities in northern Vietnam and worked at Hanoi and interview with personal officials of some companies including state-owned company, private company and foreign company, indicated that the labor-market of university graduates in Vietnam today still was influenced by the job allocation system which was implemented during the planned economy before the introduction of the Doi Moi policy to a certain extent, as the result non-meritocratic indexes have complementary functions with education signals.

研究分野：地域研究

キーワード：ベトナム 大卒者 労働市場 入職経路 キャリアパス

1. 研究開始当初の背景

(1) 1986年12月のベトナム共産党第6回大会において、社会主義的市場経済化路線(ドイモイ政策)の導入が決定されてからおよそ30年が経過した。この路線転換は、ベトナムが新しい社会主義のかたちを目指すために行われたものであったが、そのインパクトは大きく、人々の暮らしにはさまざまな成果と、他方でひずみももたらされた。その一つが、深刻な大卒者の就職難問題である。

ベトナム教育訓練省によれば、2011年度における新規大卒者のうち、大学卒業後に職を得られなかった人の割合は63%に上った。こうした事態の理由として、これまでの研究では、国家によって量的規制がかけられてきた高等教育の自由化に伴い、大学進学希望者の爆発的な増加がみられた一方で、その受け皿となる大学機関の整備の遅れが指摘されてきた。他方、学校から職業への移行、すなわち大卒者の入職経路をめぐっても大きな制度的変化が生じた。すなわち、計画経済期に行われていた、すべての大卒者に対する、国家主導による就職先の割り当て制度(「職業分配制度」)が1991年に廃止され、大卒者の労働市場が自由化された。これにより、大卒労働者が国から就職先を与えられる時代から、自らの「市場価値」を武器として、自分自身でキャリアを選択・形成しなければならない新たな状況が生み出されたが、この点については十分に注目されてこなかった。

かつて社会主義建設を経験した諸国における労働市場の変容について、制度的側面の変化に着目して論じた先行研究としては、ソ連や中国で行われていた職業分配制度の歴史的展開を分析した[Malle 1986, 堀江 2003, 李 2011]がある。これらの研究では、主として、計画経済期における職業分配メカニズムの解明と、それが今日まで続く弊害や社会的混乱の原因となっている点に着目する一方で、この制度がかつて持っていた社会的な影響が、市場経済化以後、大卒者と職業とを結びつけるマッチングのプロセスにおいて、どのように変化していったのかという点については十分に議論されてこなかった。

一方で、移行経済期初期における(旧)社会主義国の資源分配に生じた変化について論じた研究では、新たに導入された市場原理が、能力主義に基づいた、それまでとは異なる資源分配メカニズムの形成に寄与し、政治的、経済的資源の分配構造を大きく変容させていることが示された[Nee 1989]。しかしこの研究では、計画経済期と市場経済移行期のあいだを分断させて捉える傾向にあり、経済構造が変化してもなお、かつての時代の制度的な影響が、形を変えつつ維持されていることについては焦点が当てられてこなかった。

(2) 以上の研究状況に基づき、研究代表者は本研究開始時点までに、計画経済期における国家主導型の職業分配制度が廃止され、自由な労働市場へと移行する過程で、ベトナムの大卒労働者に生じた混乱と、その中で自らが持てる選択肢を最大限活用すべく、さまざまな代替的指標が生み出されている状況を明らかにした[伊藤, 2013]。また、国営系銀行を対象とした聞き取り調査をもとに、ドイモイ期ベトナムにおける大卒者の労働市場において、企業側がさまざまな能力評価の方法を駆使して採用活動を行っている現状を明らかにした[伊藤 2014]。

これらの研究を通じて、研究代表者は、ベトナムの大卒者労働市場が変容する過程で、本来であれば学歴が持つとされる能力の「正当化」機能が(一時的にせよ)弱体化していることを指摘したうえで、こうした状況下で、企業側が、学歴以外の要素、たとえば「縁故」に代表されるような人的ネットワークなどに能力指標の補完的役割を期待している可能性を示した。

今日のベトナム大卒者労働市場において、いまなお「縁故」を経由した採用慣行が行われていることは、すでにいくつかの先行研究でも指摘されてきたが[Pham 2011, Marr&Rosen 1995]、こうした能力以外の指標については、市場原理に基づく労働市場の未成熟ゆえに生じる、いわば「過渡的段階」として捉えられる傾向にあった。これに対し研究代表者は、「縁故」をはじめとする非学歴的な指標は、

学歴が持つとされてきた高いシグナル性に揺らぎが発生する中で、それを補完するために労働者、企業双方の側が不可避的に利用せざるを得なくなった代替的な能力指標なのではないかという仮説を立てた。

2. 研究の目的

そこで本研究では、今日のベトナム大卒者労働市場において、大卒者の能力を「正当化」するためにどのような指標がシグナルとして用いられているのかという問いを立て、企業側、労働者側の視点から実証的に解き明かすことを研究の目的とした。これにより、これまでベトナムを研究対象とする地域研究・教育・労働研究者が十分に注目してこなかった、移行経済期ベトナムにおける大卒者労働市場のメカニズムに焦点を当て、学歴を含む、能力の「正当化」要素の多元性について解明しようとする点に本研究の持つ独創性がある。

加えて、学歴などの要件が持つ平等性という観点から見ると、従来その不平等性が批判の対象となってきた人的ネットワークの役割にも着目する。国家によって一元的に管理されていた労働市場から、自由な労働市場へと、急速に大きな変容を経験したベトナムにおいて、こうした人的ネットワークを持つことが、労働者の能力の多寡を「正当化」する機能を果たすものとして利用されるようになっている可能性を示唆することで、日本をはじめとする近代西洋社会が自明的に受容してきた、学歴に対する本質主義的な評価を相対化して捉えるという新たな視点の可能性を提示することが可能になると考える。

3. 研究の方法

本研究では、今日のベトナムにおける大卒者労働市場において、労働者の能力がどのような指標によって測定され、評価の対象とされているのかという点について明らかにするため、大卒者の入職経路と初期～中期キャリアの形成に対する量的・質的把握の双方からアプローチすることを試みた。

(1) ドイモイ政策導入以後のベトナムでは、それまで密接に結びついていた大学と労働市場の制度的な関係性が切り離され、教育機関としての大学の役割という点に注目が集まる一方で、卒業後の大卒者をめぐるキャリア形成についての研究関心が薄く、これまでのところ大卒者を対象とした入職経路およびその後のキャリア形成の実態を把握するための十分な量的調査が行われてこなかった。そこで研究代表者はまず、ハノイ市に所在する複数の大学の卒業生に対するサンプル調査を実施することとした。ハノイ国家大学ベトナム学院による協力を得て、他記式面接調査を実施し、160人の大卒者から回答を得た(有効回答率 99.4%)

(2) 量的調査の実施に先駆けて、ハノイ市内の複数の企業(国営企業、私営企業、外資系企業含む)をモデル企業として抽出し、それぞれの人事担当者を対象にインタビュー調査を実施した。そこで、現在は企業ごとに個別に行われている大卒労働者の採用プロセスと、その中で用いられている能力評価の方法や企業の採用理念を聞き取り、学歴以外に能力評価のシグナルが存在するか、存在する場合どのように利用されているのかを明らかにしようと試みた。この作業を通じて、大卒者人材の能力評価の方法や指標をめぐって、企業体別に比較することが可能となり、それぞれの企業体にどのような特徴が現れているかを把握することを目指した。

4. 研究成果

本研究の主要な成果、国内外における位置づけとインパクト、および今後の展望は以下の通りである。

(1) 本研究の主要な成果として、移行経済期のベトナムにおける大卒者労働市場においては、大卒者の量的・質的变化に伴って能力を示す指標としての「大卒学歴」のシグナル力に低下が見られていること、その一方で、こうした状況の中で、大卒学歴というシグナルに生じた揺らぎを補完するべく、そのほかのさまざまな指標が、労働者の能力を評価する目的で用いられるようになっていくことが確認された。具体的には、「学校歴」や「出身地」、「入職経路」などである。

とりわけ、職業分配制度が行われていた時代(1991年以前)から設置されていた「伝統大学」と、職業分配制度廃止以降に新規開設された「新設大学」の卒業生のキャリアパターンに差が生じていることを指摘した。前者(「伝統大学」出身者)は公的機関や国営企業などの国家セクターに初職先を得るか、数度の転職を重ねて最終的に参入していく傾向が強いものに対し、後者(「新設大学」出身者)は新卒入職時点から民間企業や外資系企業などの民間セクターにやや偏ったキャリアを形成するという特徴が見られた。このことは、計画経済期に行われていた職業分配制度下において形成されていた大学と企業(公的機関を含む)のあいだのリンケージが、やや形を変えつつも、今日のベトナム大卒者労働市場において少なからぬ影響を及ぼし続けていることを示唆している。

(2) 「1. 研究開始当初の背景」にて述べた通り、当初の計画では、非学歴指標の中でも人的ネットワークに着目し、大卒者の能力を「正当化」するために、学歴指標の補完的役割として利用されているのではないかとの仮説を立てていた。本研究の実施を通じて、個人のキャリア形成、とりわけ入職過程において、人的ネットワークが及ぼす影響は確かに認められたものの、それが、そのほかの指標と比べた際にどの程度の重要度をもって個人の能力を測定するシグナルとして用いられているのかについては十分な考察を得ることができなかった。

また、今回の調査では、調査対象者にやや偏りがあり(「伝統大学」出身者(計138名)に対して「新設大学」出身者(計21名))、また、サンプル数全体も比較的小規模なものにとどまったため(計159名)、大卒労働者を属性ごとに類型化したり、グループ間比較を行うための説得的な論拠として用いるには限界があった。こうした限界を補足するために、質的調査(インタビュー調査)を行い、個別事例の収集に努めたが、ベトナムの大卒者労働市場全体を概観しうるほどの事例数には至らなかったため、ケーススタディとしての位置づけを与えるにすぎなかった。この点については、本研究の限界と言わざるを得ない。

ただしその一方で、今日の大卒労働市場における混乱(大卒失業者問題の深刻化)の理由として、大卒者労働市場それ自体が、公的セクターと民間セクターとのあいだに一定の分断を生じさせているなか、(少なくとも今回研究対象とした北部ベトナムに関しては)大卒労働者の中に公的セクターへの参入を希望する人が多い傾向にあることから、結果として、労働者と企業とのあいだでの需給バランスにねじれを生じさせている点を指摘できたことは本成果の大きな成果であると言える。

近年、ベトナム社会の階層分化についての研究が多数進められつつあるところ、これまで一枚岩的に捉えられてきた大卒労働者層(高度技能労働者層)の中にも多様なキャリア形成のパターンが存在すること、そしてその形成過程においては、かつての計画経済期に構築された大学と企業のあいだの繋がりが、少なからぬ影響を及ぼし続けていることを示唆できたことは、移行経済期にある社会主義諸

国の社会的諸相を明らかにしようとする今後の研究に対しても一定のインパクトを与えることになるであろう。

なお、本研究の成果は、すでに日本語と英語での雑誌論文にまとめて発表しているほか、最終年度には、研究代表者によって国際シンポジウム「階層化するベトナム社会を考える」が主催され、ベトナムと日本から複数人の研究者を招いたうえで、それぞれの研究成果の報告と学術討論を行った。このシンポジウムでの議論をふまえた最終的な研究成果については、2019年度中を目安に英語論文として執筆し、ベトナムをはじめとする海外に向けて積極的に発信する予定である。

(3)今後の展望としては、本研究を通じて明らかになった、今日のベトナム大卒者労働市場の分化傾向(国家セクターと民間セクターのあいだの分断)に注目しつつ、そこにかつての職業分配制度の影響がどの程度残存しているのかという点をさらに明らかにするべく、サンプル数を増やした量的調査と質的調査を継続的に行っていく。これにより、移行経済期にある社会主義国家が、市場経済化路線を推し進めながら、同時に社会主義建設期に形成された社会的基盤をどのように維持しようとしているのか(意図せず残存している場合も含めて)を明らかにすることで、移行経済期の研究のみならず、今日では「失われた時代」として扱われることの多い、これらの国々の社会主義建設期に対する再評価にもつながっていくと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者には下線)

[雑誌論文](計5件)

ITO Miho, “Challenges in Vietnamese secondary education during the transitional economy era”, Edited by Shinichi Aizawa, Mei Kagawa, and Jeremy Rappleye ed., *High School for All in East Asia: Comparing Experiences*, Routledge, 2018.

伊藤未帆、「ベトナム大卒労働者のキャリアパターン: 高度技能労働者の集団的考察」、荒神衣美編『多層化するベトナム社会』、アジア経済研究所、2018年。

ITO Miho, “Challenges of secondary education in Vietnam during the period of transitional economy”, Edited by AIZAWA Shinichi, *Expansion and Future of Upper Secondary Education: Comparative Analysis Across East Asia*, JSPS KAKENHI Grant Research Working Paper, 2016.

伊藤未帆、「現代ベトナムにおける学歴エリートのカリヤパス: 制度論的アプローチに向けた予備的考察」、荒神衣美編『2000年代ベトナムにおける新たな社会階層の台頭』、アジア経済研究所、2016年。

ITO Miho, “Negotiating with Multilayered Public Norms: Female University Students’ Struggle to Survive the *Đôi Mối* Period”, Edited by KATO Atsufumi, *Weaving Women’s Spheres: Living in between the public and private in Vietnamese societies*, Brill, 2016.

[学会発表](計1件)

伊藤未帆、「移行経済期ベトナムにおける大卒労働者のキャリアパス」、2017年6月25日、アジア政経学会2017年度春季大会、一橋大学。

[図書](計0件)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

[その他]

ホームページ等:なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

氏名:伊藤未帆

ローマ字氏名:ITO Miho

所属研究機関名:神田外語大学

部局名:外国語学部

職名:講師

研究者番号(8桁): 90466821